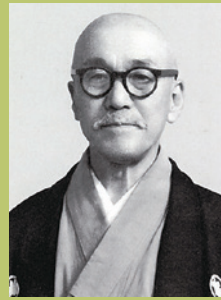


中林梧竹と

海老塚的伝

親交から生まれた書



的伝



梧竹

『明治の三筆』に挙げられる書家・中林梧竹と横濱生まれの実業家で梧竹の後援者だった海老塚的伝。二人は長年親交があり、梧竹は85歳の年、海老塚家に滞在して作品を制作、そのとき数々の名品が生まれました。

的伝は梧竹の死後、梧竹が残した作品を研究し、芸術性を見いだし、東京に「梧竹堂」を建設して作品展を開催するなど、梧竹を世に広めた第一人者です。

的伝はまた、1959年に約300点の梧竹作品を縁もゆかりもない徳島県に寄贈しました。

本展では、梧竹が海老塚家で揮毫した「慈恵」や「神品十二ヵ月」12幅など、当館所蔵の名品や関連資料を展示し、二人の関わりや寄贈のいきさつを紹介します。

2021年 6月15日(火)~9月26日(日)

- 会期 2021年 6月15日(火)~9月26日(日)
- 会場 3階 書道美術常設展示室
- 開館時間 9:30~17:00
- 休館日 月曜日。ただし8月9日(振休)、9月20日(祝)は開館し、翌日の8月10日(火)、9月21日(火)は休館。
- 展示解説 7月25日(日)、8月18日(水) 11:00~11:30
講師 松山佳代(当館学芸員) * 申込不要、8月18日のみ観覧券必要。
- 観覧料 一般 310円(250円) 高校・大学生 200円(160円) 小・中学生 100円(80円)
()内は20人以上の団体割引料金。小・中・高校生は土・日・祝日と夏・秋休み期間中は無料。
高齢者(65歳以上)と各障がい者手帳をお持ちの方は半額。
7月24日(土)・25日(日)は関西文化の日プラスのため無料。